

## 編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4538">https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4538</a>

## 編集後記

今年度は本学においても新型コロナウイルスの影響を受けた一年となった。一回目の緊急事態宣言が出た当初は春休み中だったこともあり、休み中でよかった程度の印象だったが、四月に入っても一向に収まる気配がなく、卒業式、入学式も中止となり、授業開始はとうとう五月の連休明けになってしまったのである。授業が始まるまでの間、教員どうしや教員と学生、特に新入生とリモートで連絡をとる手段を構築する作業リモート授業の準備と、今まで経験したことのない状況に教職員は忙殺された。それから一年が経とうとしているが、まさにあっという間の一年間であった。第三派が襲いかかり、二回目の緊急事態宣言中である年明け以降も、ほとんどの授業はリモートでおこなっており、季節が過ぎ行くのも認識できなかったような有様である。

卒業生のみなさまも多かれ少なかれ似たような状況であったと拝察し、お見舞い申し上げる次第である。今後も当面は不自由な状況は続くだろう。心身ともに少しでも前向きになりたいものである。この一年の経験から学んだことは、できるだけ早く新しい環境に慣れるのが重要だということである。勉強の面では、リモート授業には対面授業にない良い面もあり、それを生かした授業をすることが重要だということや学んだ。manabaというクラウド型の教育支援ツールやZoomという同時双方向型会議システムなどを利用すると、対面授業ではできない授業が展開でき、結果的に学生がより集中して勉強できることを知った。このような多忙な中、本号では、中周子教授、森西真弓教授、東野敏夫客員教授、奈良崎英穂准教授（あせごのまん氏）の四名の方にご投稿いただいた。中、森西両先生は今年度でご定年であり、専任教員としては最後の御論考となる。長きにわたり国文学科を支えていただき、この場を借りて感謝申し上げます。

（国文学科長 田原広史）